

「スマアワ Ship & Cycle」

「須磨エリア」と「淡路島」を結ぶ海上航路を期間限定で運航した「スマアワ Ship & Cycle」。

クルージングと淡路島サイクリングを楽しめる3日間の催しに、市内外からたくさんの方が参加されました。



航路：須磨↔淡路交流の翼港(ルート図)

開催日：2022年10月8日(土)・9日(日)・15日(土) 1日1往復

使用船舶：boh boh KOBE号 定員：1便100名(うち自転車持ち込み30名程度)

乗船料：大人1000円、小学生500円、自転車持ち込み料300円

主催：神戸市港湾局 一般財団法人神戸観光局

協力：淡路市、一般社団法人 淡路島観光協会

2つの地域の魅力向上と航路の事業性を探る

神戸市 港湾局港湾計画課長 白波瀬 浩司

須磨海岸は、白砂青松の美しい砂浜を有する阪神間唯一の自然海岸であり、神戸を代表する観光地の一つです。神戸市では、この須磨海岸エリアの魅力にさらに磨きをかけ、四季を通じて多くの人々が訪れる空間となるよう、様々な取り組みを進めており、その一環としてこの度、須磨と淡路を結ぶ海上航路実証事業(スマアワ)を実施したところです。

須磨海岸付近の国道2号では、海を望むことができる景観から、休日ともなるとサイクリングやランニングをされている方を多く見かけます。一方、対岸にある淡路島では、サイクリングで島一周する通称「アワイチ」や、新たな観光集客スポットが続々とオープンするなど、近年、人気を集めているエリアです。このサイクリング人気と淡路島に着目し、サイクリングを絡めて海上航路で繋ぐことで、須磨エリアの新たな人気スポットにならないかとの若手職員のアイデアを採用し、その事業性を探るための実証を試みることにしました。

私も実証初日に、サイクリングを体験させていただきました。午前9時に須磨を出航し、遊覧船のオープンデッキから須磨海岸や須磨アルプスなど、海から見る神戸の景色を楽しみながら約1時間の航海を経て淡路島の淡路交流の翼港に到着し、淡路島観光協会の方々から和太鼓による盛大な歓迎を受けました。下船後、電動自転車をレンタルし、いざスタート。サイクリング素人の私は、岩屋方面から県道157号を経由して北淡方面に至る最も短い北側ルートを選択しました。途中、厳しい峠越えのある走行距離にして約38kmのサイクリングの

旅でしたが、幸いにも電動アシスト自転車であったことから、淡路島の景色を見ながら快適なサイクリングを楽しむことができました。淡路からの帰路では、夕日が沈む明石海峡大橋の絶景を望むこともでき、無事に須磨への帰路につきました。

今回の実証事業では、予約開始から自転車持ち込み枠については5日間、乗船のみの予約を含め約3週間で完売するなど、一定のニーズがあることが確認でき、参加頂いた多くの方々からも好評をいただきました。私も体験を踏まえ、実現すれば、須磨エリアの新たな魅力の一つになるのではと実感したところです。一方で、須磨の乗船場所までのアクセスの分かりにくさや乗下船時のバリアフリー化などの改善点等もご指摘いただきました。まだまだ解決すべき課題も多いところですが、須磨海岸エリアの魅力向上に向け、さらに検討を深堀していきたいと思います。



スマアワ DATA & アンケート

予約開始直後に申込が殺到し、ほどなく予約を停止。
直前のキャンセル(特に天気が悪かった2日目)もありましたが、多くの方にご参加いただきました!

参加人数とサイクリング人数

乗車総数：504名

※下記 504 名の日別内訳となります。往復乗車は2名でカウント

10月8日(土曜日)

須磨 ↓ 淡路	総乗車数 93名	
	自転車 29名	
	輪行※ 2名	
	レンタサイクル 18名	
	乗船のみ 44名	
淡路 ↓ 須磨	総乗車数 86名	キャンセル1名
	自転車 26名	
	輪行※ 0名	
	レンタサイクル 16名	
	乗船のみ 44名	

10月9日(日曜日)

須磨 ↓ 淡路	総乗車数 79名	
	自転車 24名	
	輪行※ 0名	
	レンタサイクル 11名	
	乗船のみ 44名	
淡路 ↓ 須磨	総乗車数 74名	キャンセル5名
	自転車 22名	
	輪行※ 1名	
	レンタサイクル 11名	
	乗船のみ 40名	

10月15日(土曜日)

須磨 ↓ 淡路	総乗車数 89名	
	自転車 31名	
	輪行※ 0名	
	レンタサイクル 18名	
	乗船のみ 40名	
淡路 ↓ 須磨	総乗車数 83名	キャンセル2名
	自転車 31名	
	輪行※ 0名	
	レンタサイクル 18名	
	乗船のみ 34名	

※輪行：自転車を分解し専用の袋に収納し、公共交通機関で運ぶこと

アンケート回答より

回答数：207件 対象：本実証実験の乗船者

参加理由

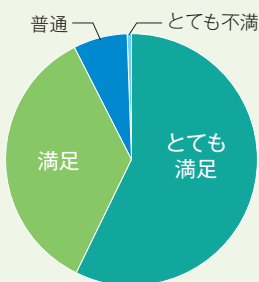
- 初めての航路に興味があった 140件
- 面白そうだった 115件
- 淡路島にいきたかった 109件
- 船に乗りたかった 87件
- 自転車の持ち込みができる 64件
- 景色がよさそうだ 64件
- レンタサイクルが用意されている 21件
- 淡路フェリーボートを偲んで 1件
- 家が近い 1件
- 地元なので 1件
- 須磨が好きでよくいく 1件
- 故郷のイベントだった 1件

良かった点(抜粋)

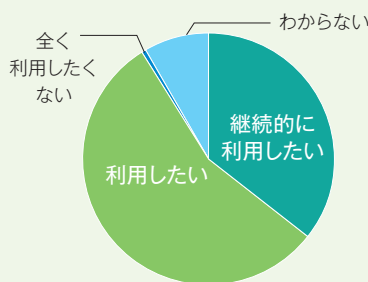
- 景色が良い 7
- 船員の対応が良い 6
- 2F かつろぎスペースが良い 5
- 船内の売店が良い 3
- 自転車の収容方法が良い 2
- ぜひ定期便に 5
- 乗船時間がちょうど良い 3
- 価格帯が良い 2
- 気軽に淡路へ行ける 2
- サイクリングが楽しめた 1

- 須磨の活性化につながる
- 須磨港復活を待っていた
- 淡路側の努力が必須
- 阪神間のサイクリストにありがたい
- 行政の支援無しでは難しいのでは(道路整備など)

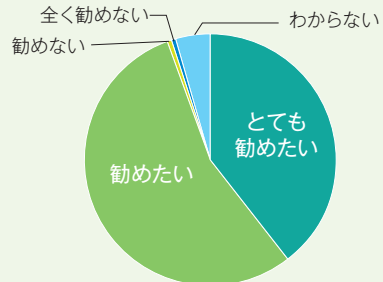
今回ご利用の評価



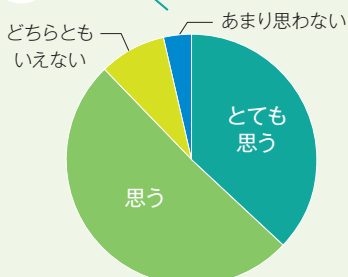
また利用したい?



友人知人に勧めたいですか?



このサービスが須磨の魅力向上につながると思うか?



改善点

須磨岸壁関連

- 乗船場までのアクセスが分かりづらい 14
- 乗降が階段で危ない 5
- 待機スペースが欲しい 2
- 自転車積込に人員が必要 1

今日は天気の良い、クルーズとサイクリングをのんびり楽しみたいです。

「スマアワ Ship & Cycle」体験記

「スマアワShip & Cycle」3日目の、10月15日(土)は、夏のような日差しが眩しい快晴のなか行われました。参加した神戸観光局職員 俵 秀之が当日の様子をレポートします。

自転車で港に到着(左・俵)。一緒に参加した柴 健太さん(右)は、しまなみ街道や、近年サイクリストの間で人気の淡路島を一周する「アワイチ」サイクリングも共に経験した友人。

8:45 須磨岸壁到着

乗船



乗船するのはいつも神戸港の観光クルーズで活躍している boh boh KOBE 号。



スタッフに誘導され、自転車と一緒に船内へ。



1F にスポーツバイク用のラックが設置されていて、船の揺れで自転車に傷つかないようにハンドルのクッション材も用意されていました。サイクリストには嬉しい配慮です。

船内ではみなさん好きな場所でゆっくり過ごされていました。カフェや足を伸ばしてくつろげるクッションなどがあるスペースも。



9:00 須磨出港



3階のオープンデッキからは明石海峡大橋と淡路島の見晴らしが最高！

サイクリングへ出発

私たちは自転車持ち込みでしたが、現地でのレンタサイクル利用、自転車を利用せず公共交通機関で島内を移動する参加者も。みなさんそれぞれに出発。



10:00 淡路交流の翼港入港



南国の雰囲気漂うきれいな港。





海風を感じる
爽快サイクリング!
もちろん安全第一です。

昼食 & デザート



最初の目的地は18km先のうどん屋「いつも庵」。行列のできる有名店で名物の「玉ねぎつけ麺」に「石焼き淡路島牛丼」も追加し、お腹いっぱい。



食後のデザートは、近くの「ICE-UP」で手作りのアイスクャンディー。明らかに食べ過ぎですが、自転車を漕ぐのでゼロカロリーです。

名所に立ち寄り



島の西側に向かって約7km横断し、志筑郡家線の途中にある「淡路國一之宮 伊弉諾神宮」へ。ここは日本列島を作り出した伊弉諾尊（イザナミノミコト）が余生を過ごしたといわれる由緒正しい場所。



16:00 淡路交流の翼港出港

「食べて漕いでとても充実した1日でした！現在、積む車がないと自転車と一緒に移動する手段がない神戸←淡路の航路があると非常に便利です、両地域の活性化の可能性も秘めていると感じました。今回は実証実験という形でしたが、事業化の期待を込め、また機会があればぜひ参加したいと思います。」

昼寝



更に北西へ2km進み「多賀の浜海水浴場」に到着。潮風が心地よく、海辺に広がる芝生に寝転び、40分も昼寝をしました。



帰りの便に乗り遅れないよう早めに帰路へ。岩屋を経由し、ぐるっと淡路島の北側を回ります。西海岸には新しいカフェや飲食店が建ち並び、観光客で賑わっていました。



多賀の浜海水浴場
淡路交流の翼港
伊弉諾神宮
いつも庵
淡路島北部をぐるっと、約57.5km走りました。



夕方の明石海峡大橋を眺め、少しうとうとしながら船に揺られました。

17:00 須磨岸壁帰港

ほかの参加者の方にもお話をうかがいました



3日間のうち2回参加したご夫婦。淡路島へはよく出かけるので、神戸か地元の須磨から船がでたらいいなと前から思っていたとのこと。自転車を利用し、1回目は北部を周り、2回目は南へ行ってハンバーガーを食べたり、買い物を楽しんだそうです。買った海産物などはあらかじめ積んできたクーラーボックスに。「この航路が定期化して淡路と須磨、お互いに観光する人が増えて活性化してほしい」と今後に期待されていました。



オープンデッキで楽しそうにおしゃべり中の親子。船旅が好きで、今回はお住まいから近い須磨から船に乗れるのが魅力で参加されたそうです。淡路島では自転車は使わず徒歩で港から近くの淡路夢舞台へ。ゆっくり見学し、淡路ビーフなどのグルメも堪能したとのこと。「船は潮風が感じられて気持ちいいですね。船内が想像していたより、おしゃべりでゆったりくつろげました。また機会があれば参加したいです」と、満足の様子でした。



2人の子供さんとお父さん。船が好きという7歳の子供さんが船内に設置されているお絵かきセットで描いた船の絵を見せてくれました。現地では、自転車は使わず徒歩とバスで、淡路夢舞台、淡路ハイウェイオアシスなどを巡ったそうです。2歳の子供さんは、船の揺れがお気に入りの様子で船内では終始ご機嫌だったとのこと。「あわ神あわ姫バス」のレアな金色のバスにも乗れたようで「いい思い出ができました」と笑顔でした。